

一〇二二年六月二十五日

夏日影屏より高き一断碑
ひもとけば紙魚もなつかし虚子句集

ほんこ

簾上ぐ山に夕日の沈むまで

よし子

雨蛙載せれば鼓動手のひらに

宏虎

裸子の真つ赤に泣いて寝返りす

なつき

下闇にせせらぐ峠の奈落かな

わかば

清水の舞台袖より夏の蝶

かかし

大岩の影より覗く七変化

ぽんこ

禪寺の悟りの窓に緑さす

ぼんこ

月光の届かぬ水辺恋螢

むべ